

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
国際医療看護福祉大学校	平成13年12月11日	佐藤 本実	〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-19 (電話) 024-956-0160																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人新潟総合学院	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	臨床工学技士科	平成17年文部科学省告示第30号	-																						
学科の目的	技術進歩の著しい生命維持管理装置・生体機能代行装置等の機器を操作する臨床工学技士に求められる高度な機器管理能力を育成するために、その原理から応用まで様々な角度から学習を進め、医療機関・関連企業・在宅医療分野において幅広く活躍できる人材を育成する。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	3210時間	2370時間	660時間	180時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人	112人	2人	6人	4人	10人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期考査と平素の学習状況を総合し、4段階評価とする。表示はA・B・C・Dとし、Dは不合格。 卒業条件は、学則の全科目の単位を履修。 進級条件は、当該年度の全科目の単位を履修。																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月25日～4月7日		卒業・進級条件																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任・スクールカウンセラーによる個別面談および学科長・担任による学生・保護者面談		課外活動	■課外活動の種類 特になし ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 福島県立医科大学会津医療センター、常盤病院、東北大学病院、会津中央病院、竹田総合病院、自治医科大学付属病院、福島赤十字病院、庄内 ■就職指導内容 マッチング、履歴書の添削、模擬面接による指導、卒業した未内定者への就職支援等 ■卒業業者数 39人 ■就職希望者数 32人 ■就職日数 29人 ■就職率 : 82.1 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 74.4 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・就職活動中: 3人 ・国家試験再受験: 7人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>臨床工学技士国家試験</td> <td>②</td> <td>39人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	臨床工学技士国家試験	②	39人	32人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
臨床工学技士国家試験	②	39人	32人																							
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 3.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者115名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者111名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、結婚(妊娠)等 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 学生との個別面談、保護者会、保護者面談、三者面談、スクールカウンセラーとの面談等																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: ○有・無 ※有の場合、制度内容を記入 「無利子奨学金制度」年額30万円を無利子で貸与し、卒業後の返済により、就学の便宜を図っている。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	URL: http://www.i-medical.jp/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

臨床工学技士の育成において、臨床工学技士法を鑑みつつ、医療現場が専門学校に望む教育内容を確認する。更に、地域医療に貢献できる臨床工学技士を育成するため、病院並びに施設側、学生側双方にとって望ましい教育内容を提供すべく、医療機関との連携を図りながら教育課程の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会の目的として「教育課程編成の改善」を主とするため、本委員会を教務部の指導・助言機関として位置づけ、委員会での協議事項を学校管理者で検討するとともに、本校及びグループ校の意見等を取り入れながら教育課程へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
牧口 智夫	新潟医療福祉大学 医療技術学部 臨床技術学科	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
片岡 則之	日本大学工学部 機械工学科	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
朱 欣	会津大学 生体情報学講座	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
遠藤 昌宏	医療法人辰星会 榎記念病院 医療技術部ME課長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
安田 公彦	公益財団法人 会田病院 ME室副主任	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
車田 雄樹	秀公会 あづま脳神経外科病院	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
入谷 隆一	日本大学工学部 臨床工学技士課程教室	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
添田 信之	公益財団法人 星総合病院 技士長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
佐藤 本実	国際医療看護福祉大学校 学校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
岡崎 史紹	国際医療看護福祉大学校 教務部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
塩田 博幸	国際医療看護福祉大学校臨床工学技士科 学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
斉藤 孝之	国際医療看護福祉大学校臨床工学技士科 教員	平成29年4月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数2回

第1回開催時期…7～8月、第2回開催時期…1月～2月

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年9月5日 13:30～14:30

平成28年度 第2回 平成29年2月14日 13:30～14:30

平成28年度 第1回 平成29年7月10日 11:00～12:00

平成29年度 第2回 平成30年2月13日 13:30～14:30 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

国家試験対策の学習とリンクした形での臨床実習が課題であると考えている本課程では、本委員会からのアドバイスを受け、学内での授業において実際の機器に触れて操作方法を学ぶ機会を増やしたり、人工心肺装置に触れることのできる研修を導入したりと、臨床実習前の学習を充実させてきた。直近の会議では、病院の各部署がどのように連携して手術がなされているのか、学生が見学できる機会をいただくこととなった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通して生命維持管理装置等の医療機器が臨床医学の分野でどのように活用されているのかを理解させるとともに、医療に携わる技士としてのモラルと自覚を修得させる。また、将来、医療従事者としての医療の質の向上及び発展にどのように寄与すべきなのか認識させ、チーム医療の一員としての資質を養うことを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は、到達度・評価を項目別に点数化する。評価表は文書にて作成し、各学生に返却。返却時に内容を伝達し、本人の改善点を明示して今後のスキルアップを図る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
血液浄化装置実習	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での血液浄化療法を学ぶ。	竹田総合病院、会津中央病院、太田西ノ内病院、総合南東北病院、星総合病院、寿泉堂総合病院、須賀川病院、白河病院 等
集中治療室実習 (人工呼吸器実習を含む)	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での集中治療医学、呼吸療法を学ぶ。	竹田総合病院、会津中央病院、太田西ノ内病院、総合南東北病院、星総合病院、寿泉堂総合病院、須賀川病院、白河病院 等
手術室実習 (人工心肺装置実習を含む)	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での手術室業務、体外循環を学ぶ。	竹田総合病院、会津中央病院、太田西ノ内病院、総合南東北病院、星総合病院、寿泉堂総合病院、須賀川病院、白河病院 等
医用機器管理業務実習	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での医療機器管理、安全管理を学ぶ。	竹田総合病院、会津中央病院、太田西ノ内病院、総合南東北病院、星総合病院、寿泉堂総合病院、須賀川病院、白河病院 等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門教育における教員には、授業を通して医療・福祉現場のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と、学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。そのため、就業規則第57条等による研修体制を充実させることで日々の研鑽を図る方針を推進している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成28年6月 ADATARA LIVE DEMONSTRATION 2016(ADATARA Live Demonstration主催)
- ・平成28年6月 体表心臓微小電位研究会(日本不整脈心電学会主催)
- ・平成28年6月 心電情報処理ワークショップ(日本不整脈心電学会主催)
- ・平成28年6月 心電図伝送システム研究会(日本不整脈心電学会主催)
- ・平成28年9月 日本臨床工学技士養成教員学術研究会(一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会主催)
- ・平成28年10月 メディカルクリエーションふくしま2016(一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構主催)
- ・平成28年12月 動物倫理研修(ニプロ i-MEP)
- ・平成29年1月 臨床実習研修(ニプロ i-MEP)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成28年4月 新入職員研修(人材開発部主催)
- ・平成28年6月 教員研修会(一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会主催)
- ・平成28年7月 新人教育フォローアップ研修(人材開発部主催)
- ・平成28年9月 対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修 (人材開発部主催)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成29年6月 ADATARA LIVE DEMONSTRATION 2017(ADATARA Live Demonstration主催)
- ・平成29年7月 動物倫理研修(ニプロ i-MEP)
- ・平成29年10月 メディカルクリエーションふくしま2017(一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構主催)
- ・平成30年2月 臨床実習研修(ニプロ i-MEP)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成29年6月 教員研修会(一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会主催)
- ・平成29年7月 実践行動学プログラム公認ファシリテーター養成講座(一般社団法人実践行動学研究所主催)
- ・平成30年2月 福島県臨床工学技士会研修会(一般社団法人福島県臨床工学技士会主催)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校・評価委員会・本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な点の改善、方向性、及び次年度以降の解決・取組課題を具体化し、学校の質保証・向上に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
後藤 敦	学校法人新潟総合学院 国際メディカルテクノロジー専門学校 元校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
安田 公彦	校友会会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
寺島 長司	あづま脳神経外科病院 事務局長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
窪 睦子	総合南東北病院 看護部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
永山 三郎	県立福島工業高校 元校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
佐藤 本実	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
影山 かほる	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 副校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
岡崎 史紹	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 教務部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
佐藤 隆浩	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 事務局長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
荒川 聖	学校法人新潟総合学院 国際医療看護福祉大学校 事務局長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

・自校の元校長、卒業生、病院事務長、実習先看護部長、高等学校元校長

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://www.i-medical.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要・教育理念・教育目標
(2) 各学科等の教育	学科別カリキュラム・特色・資格・就職実績
(3) 教職員	専任教員・兼任教員紹介・数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事・対外活動・イベント・施設・設備
(6) 学生の生活支援	各種奨学資金・学生寮・住居紹介
(7) 学生納付金・修学支援	各種奨学資金・学費サポート・特待生制度
(8) 学校の財務	収支決算書
(9) 学校評価	自己点検評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生状況・国際提携校・国際交流活動
(11) その他	生涯学習・編入学等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.i-medical.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学技士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			物理学Ⅰ	臨床工学技士が使用する治療機器に必要とする物理学的知識の基礎を学ぶ。	1年前後	90	3	○			○	○		
○			物理学Ⅱ	臨床工学技士が使用する治療機器に必要とする物理学的知識を深める。	2年前	30	1	○			○	○		
○			医療倫理学	弱い立場から物事を考えるような思考力を身に付ける。	1年後	30	1	○			○		○	
○			医学英語	臨床の現場に必要とする英語の基礎及び英語の文献を読めるようにする。	1年前後	60	2	○			○			○
○			社会学	臨床現場で必要とされる社会福祉や、公的援助などについて学ぶ。	1年前	30	1	○			○			○
○			数学	臨床工学技士に必要とされる数的知識の基礎について学ぶ。	1年前後	60	2	○			○			○
○			コミュニケーション学	社会人として必要とされるコミュニケーションスキルを身に付ける。	1年前後	60	2		○		○			○
○			プレゼンテーション学	表現力及びリーダーシップを高めることを目的とし、プレゼンテーション学が。	3年前	30	1		○		○			○
○			ビジネス実務 (マナー・文書)	患者様との接客並びにビジネス文章の読み書き等を理解できるようにする。	3年前	30	1		○		○			○
○			人体の構造及び機能Ⅰ	人体の構造と機能を学び、臨床医学の理解を深める。	1年前後	120	4	○			○			○
○			人体の構造及び機能Ⅱ	さらに高度な人体の構造と機能を学び、臨床医学の理解を深める。	1年前後	60	2	○			○			○
○			医学概論	医学の本質を理解し、医学と医療の関係について学ぶ。	1年前	30	1	○			○			○
○			公衆衛生学	人々の暮らしと生活について考え、様々な社会的問題について学ぶ。	1年後	30	1	○			○			○

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学技士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床生理学	生体の機能を学び、それらの生理的概念の理解を深める。	1年前後	60	2	○			○	○		
○			臨床生化学	生体分子を構成している化学物質や細胞、代謝、臓器、免疫等を学び、臨床医学への理解を深める。	1年後	30	1	○			○	○		
○			関係法規	臨床工学技士並びに医療現場における関連法律等について学ぶ。	1年前	30	1	○			○	○		
○			臨床薬理学	臨床工学技士が使用する薬理について学びその使用方法について理解をする。	3年前	30	1	○			○	○		
○			病理学概論	臨床工学技士に必要とされる疾患の成り立ちの基礎について学ぶ。	1年前	30	1	○			○	○		
○			応用数学Ⅰ	基礎的な数学を学び臨床工学技士に必要とする工学分野における応用力を高める。	2年前	30	1	○			○	○		
○			応用数学Ⅱ	臨床工学技士に必要とする工学分野における応用力を高める。	2年後	30	1	○			○	○		
○			電気工学Ⅰ	電気工学の基礎を学び、電気的素子について理解する。	1年前後	60	2	○			○	○		
○			電気工学Ⅱ	直流・交流の違いを理解し、電気工学の応用について学ぶ。	1年前後	60	2	○			○	○		
○			電気工学技術	国家試験過去問題を通して問題の解き方を学び応用力を高める。	2年前	60	2		○		○	○		
○			電子工学Ⅰ	電子工学の基礎を学び、電子的素子について理解する。	1年前後	60	2	○			○	○		
○			電子工学Ⅱ	電子的素子の動作原理について理解し、その応用について学ぶ。	2年前	60	2	○			○	○		
○			電子工学技術	国家試験過去問題を通して問題の解き方学び応用力を高める。	2年後	60	2		○		○	○		

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学技士科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			機械工学Ⅰ	物理学で学んだ基礎を用いて機械への応用力を高める。	2年後	30	1	○			○		○		
○			機械工学Ⅱ	機械工学Ⅰで学んだことを活かし、生体の機械的要素について学ぶ。	3年前	30	1	○			○		○		
○			システム・情報処理工学Ⅰ	コンピュータシステム（ハード、ソフト）の基本構成及び機能を学ぶ。	2年後	60	2	○			○		○		
○			システム・情報処理工学Ⅱ	コンピュータ技術Ⅰで学習した内容の応用力を高める。	3年前	60	2	○			○		○		
○			コンピュータ技術Ⅰ	パソコンの基本スキルや、文書作成力を高め検定試験の合格を目指す。	1年前後	60	2		○		○			○	
○			コンピュータ技術Ⅱ	パソコンの基本スキルや、グラフや表の作成等について学び検定試験の合格を目指す。	3年前	30	1		○		○			○	
○			医用工学概論	臨床に関わる工学的分野の概要を学習する。	1年前後	60	2	○			○			○	
○			物性工学Ⅰ	生体の物理的特性について学ぶ。	1年後	30	1	○			○		○		
○			物性工学Ⅱ	物性工学Ⅰや機械工学で学んだことを活かし、生体の物理的特性についての問題対応を行う。	2年前	30	1	○			○		○		
○			材料工学	臨床現場で用いられる様々な医用材料について学ぶ。	3年前	30	1	○			○		○		
○			計測工学	医用生体計測装置学の分野に必要とする基礎的な計測工学を学習する。	1年後	30	1	○			○		○		
○			放射線工学概論	放射線特性全般から医療応用まで、放射線について全般的に学ぶ。	3年前	30	1	○			○		○		
○			医用治療機器学Ⅰ	医療機器の原理、操作方法、実際の使用について基本的な練習を行う。	2年前	60	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学技士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医用治療機器学Ⅱ	医療機器の原理、操作方法、実際の使用についての理解を深める。	2年後	60	2	○			○	○		
○			生体計測装置学Ⅰ	生体計測装置における基礎及び原理を学ぶ。	2年前	60	2	○			○	○		
○			生体計測装置学Ⅱ	生体計測装置の使用方法及び安全性について学ぶ。	2年後	60	2		○		○	○		
○			呼吸療法Ⅰ	呼吸の生理及び、呼吸器疾患を学ぶ。	2年後	60	2	○			○	○		
○			呼吸療法Ⅱ	生命維持管理装置の人工呼吸器を始め、各種呼吸関連器機の原理、操作及び保守点検、安全管理を学ぶ。	3年前	60	2		○		○	○		
○			体外循環Ⅰ	人工心肺装置を使用する様々な病気や状態について基礎的なことを理解する。	2年前	60	2	○			○	○		
○			体外循環Ⅱ	人工心肺装置の動作について理解し、補助循環装置の理論について理解する。	2年後	60	2		○		○	○		
○			血液浄化療法Ⅰ	血液浄化療法の必要性や、現状について理解する。	2年前	60	2	○			○	○		
○			血液浄化療法Ⅱ	血液浄化療法に必要な病原や治療法について理解する。	2年後	60	2		○		○	○		
○			医用機器安全管理学Ⅰ	安全管理に関する基礎的な知識を身に付ける。	1年後	30	1	○			○	○		
○			医用機器安全管理学Ⅱ	臨床の現場における安全管理について学ぶ。	2年前後	90	3	○	△		○	○		
○			リスクマネジメント	医療事故を題材に、原因・対策について、ディスカッションしていく。	3年前	30	1		○		○	○		
○			臨床医学総論Ⅰ	内科学概論、代謝・内分泌疾患、腎泌尿器疾患、滅菌消毒学について学ぶ。	2年前	60	2	○			○	○		

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学技士科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床医学総論Ⅱ	感染症、神経病学、循環器学、外科学概論について学ぶ。	2年後	60	2	○			○		○		
○			臨床医学総論Ⅲ	消化器学、呼吸器学、血液学、麻酔集中治療医学について学ぶ。	3年前	60	2	○			○		○		
○			血液浄化装置実習	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での血液浄化療法を学ぶ。	3年前	45	1			○		○		○	○
○			集中治療室実習(人工呼吸器実習を含む)	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での集中治療医学、呼吸療法を学ぶ。	3年前	45	1			○		○		○	○
○			手術室実習(人工心肺装置実習を含む)	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での手術室業務、体外循環を学ぶ。	3年前	45	1			○		○		○	○
○			医用機器管理業務実習	学内講義・演習を踏まえ、実際の臨床現場での医療機器管理、安全管理を学ぶ。	3年前	45	1			○		○		○	○
○			臨床工学総合学Ⅰ	臨床実習前指導、実習後指導を行う。	3年前後	120	4	○	△		○		○		
○			臨床工学総合学Ⅱ	国家試験合格に向けた工学系対策を行う。	3年後	120	4	○	△		○		○		
○			臨床工学総合学Ⅲ	国家試験合格に向けた医学系対策を行う。	3年後	120	4	○	△		○		○		
合計					61科目		3210単位時間(105単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件…全科目の単位を履修すること	1学年の学期区分	2期
履修方法…①3分の2以上の出席率 ②定期試験等の結果がC評定以上	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。